

鎌倉公園

■住 所：東京都葛飾区鎌倉 3-2 2-1

■H P : <https://www.city.katsushika.lg.jp/institution/1000096/1006903.html>

■ブ ロ グ : <https://kamakura.exblog.jp>

■Instagram : <https://www.instagram.com/kamakura20220305/>

■施設概要：園内は、野草園と野草園管理所、じゃぶじゃぶ池や大きな滑り台がある南側エリアと遊具がある北側エリアに分かれる。2022～2023 年に鎌倉公園全体がリニューアルされ、新たに野草園管理所が設けられた。管理所には専門員が常駐し、野草園の自然を紹介する展示や自然を学ぶ講座や親子自然あそび教室などのイベントを提供している。

■発 注 元：葛飾区

■受 託 年：令和 4 年 2 月～

■職員人数：4 名

■休 館 日：月曜日（月 2 日）、年末年始

●鎌倉公園（南側エリア）の概要

鎌倉公園は、葛飾区の水元小合溜の内溜から南に約 4km、区内や江戸川区の水田を潤したかつての小岩用水に接する位置にある。約 900m 東には江戸川の緑地があり、公園の周囲には住宅地が広がる。鎌倉地域の北隣は帝釈天題鏡寺などで有名な柴又がある。野草園と野草園管理所、じゃぶじゃぶ池や大きな滑り台がある南側エリア（3,480 m²）と、ブランコなどの遊具や砂場、ボール遊び場などがある北側エリアに分かれており、専門員は南側エリアを主に管理している。

野草園の由来は、区内に広がる水田や畑の宅地開発が高度経済成長期に進み、自然に触れる機会の喪失を懸念した小学校の元校長が校庭に野草園を整備し、その活動を知った当時の区長が 1971（昭和 46）年に鎌倉第三公園内に野草園を設置し、その管理を依頼したことに始まる。なお、野草園は鎌倉地域を代表する名所として、葛飾区の「かつしか郷土かるた」の札に選ばれ、「虫の声 秋草そよぐ 野草園」と紹介されている。

その後、2015（平成 27）年から鎌倉公園の改修事業が始まり、区民対象の事業説明会や検討会で住民の要望を踏まえ、「地域の庭として人々が集い憩える公園」をコンセプトに改修され、2022 年 3 月にリニューアルオープンした。野草園管理所には専門員が常駐し、公園利用者への対応や設備の維持管理をおこなう他、管理所内で野草園の見どころ紹介や、生きものの飼育展示、五感で楽しめる常設展示、様々な企画展示、解説案内などを提供している。また野草園の生きものや自然について学ぶ講座や、親子自然遊び教室などのイベントも開催している。

野草園には改修前よりニホンアカガエルとアズマヒキガエルが生息しており、その保全活動として生息環境を意識した植生管理や、産卵後に一部を上陸まで飼育して野草園に放流する試みを続けている。



鎌倉公園野草園



野草園管理所

●主な事業（カッコ内数字は令和7年度実績）

1. 園内維持管理業務：巡回業務、清掃、利用者への対応、植生管理など

令和7年度は年間94,580人の来園者があった。公園利用者が安全に快適に利用できるよう、遊具や野草園管理所など設備や施設に不備がないか園内を毎日巡回して点検し、園内や管理所の清掃等を行った。また、利用者がルールやマナーを守るようにサインを設置したほか、声かけや注意などを利用者に直接行った。その他、「じゃぶじゃぶ池」の利用ルールを整備し、管理運営も行った。問題があった場合は、区・公園課に相談し適宜対処した。園内の植栽や景観の維持のために年間を通じて草刈りや除草作業、生垣の剪定などを行い、花時計の花の植替えや手入れを行った。

2. 環境教育・企画等業務：窓口業務、情報収集業務（生物調査）、ニホンアカガエル等の保全、展示室の運営・管理、イベントと講座の実施、ボランティア養成、情報発信など

令和7年度は、年間64,897人の野草園管理所の来館者に対し、専門員が野草園の生物に関する案内や団体対応、ハンモックなど無料貸出などを行う「窓口業務」や、短時間で自然をテーマとした「ガイドウォーク」と「ミニプログラム」を実施し、合計399人が参加した。

「情報収集」として、園内の植物相や、開花や結実などの見頃を調べる「植物調査」、園内に生息するチョウ類やトンボ類、バッタ類などの昆虫や鳥類を確認する「昆虫調査」「鳥類調査」などを毎月実施した。

	確認した種数
植物（草本）	64科272種
植物（木本）	34科77種
昆虫	57科119種
鳥類	17科21種
その他（哺乳類、両性類、クモ類）	15科15種

ニホンアカガエルとアズマヒキガエルの保全活動では、野草園内の水路が直立護岸となっているため産卵期の成体や、変態直後の幼体が上陸できるように足場を作った。また上陸後に隠れ家となる場所をつくり、暑さや乾燥が厳しい時期は灌水も行った。その他、多様な生きものが暮らせるように植生の管理を計画した。野草園には見本園としての側面もあるため、種名板を設置し、館内で野草園の見どころを紹介するとともに、野草の観察鑑賞の妨げとならないように植生管理を行った。

環境教育の取り組みとして、葛飾区内で見られる魚類、野草園で見られるカエルやチョウ、トンボの幼虫などの「生物展示」や、季節ごとに「企画展」（年4回）を管理所内で展示した。本物を間近に見られる生物展示は利用者には非常に高い関心を持たれており、毎日訪れる親子もいた。より関心の高い層には、自然や歴史について学ぶ「講座」（年11回）や、親子自然あそび教室などの「イベント」（年14回）を提供し、野草園や公園内に生息する様々な生物の観察や自然遊びなどを通じて、自然に親しみ、学ぶ機会として合計25回開催し、合計308人が参加した。

また、“地域の庭”として鎌倉公園を大切にする人の輪を広げるため、ボランティアを募集する「ボランティア説明会」を1回開催し、登録した18名のボランティアに野草園の植生管理やイベント運営の補助を行う機会を提供し、合計53回の活動にのべ184人が参加した。

「情報発信」として、「かまくらこうえんだより」を毎月発行し、ブログ「鎌倉公園」やInstagram、Facebook、Twitterで情報発信した。また、鎌倉公園野草園のリーフレットを作成し、2000部を発行した。その他、団体向けリーフレットや年間の講座・イベントを案内するリーフレットを発行した。



秋の音楽会



野草園での講座の様子



野草園管理所での展示